

別表ア 基礎杭打工 偏心管理基準値

(単位：mm)

杭径	木 杭		プレキャストコンクリート杭		鋼管杭		場 所 打 杭	
	管理基準値	(参考)規格値	管理基準値	(参考)規格値	管理基準値	(参考)規格値	管理基準値	(参考)規格値
60	60	225						
90	90	225						
120	120	225						
150	150	225						
180	180	225						
210	210	225						
200			33	50				
250			41	62				
300			50	75				
350			58	87				
400			66	100	66	100		
450			66	100	66	100		
500			66	100	66	100		
550			—	—	66	100		
600			66	100	66	100		
700			66	100	66	100		
800			66	100	66	100	66	100
900					66	100	—	—
1,000					66	100	66	100
1,200							66	100
1,500							66	100
1,800							66	100
2,000							66	100
2,500							66	100
3,000							66	100

別表イ 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管）のジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

J I S A 5372 R C管 (B形管)				J I S A 5372 R C管 (NB形管)						
呼び径 (mm)	管理基準値			(参考) 規格値		管理基準値			(参考) 規格値	
				8 管水路工事 良 質 地 盤	8 管水路工事 軟 弱 地 盤					
150	+13	0	+20	0	+11	0	+15	0	+23	0
200	+13	0	+20	0	+11	0	+15	0	+23	0
250	+13	0	+20	0	+11	0	+15	0	+23	0
300	+12	0	+18	0	+10	0	+15	0	+23	0
350	+12	0	+18	0	+10	0	+15	0	+23	0
400	+14	0	+21	0	+11	0	+19	0	+29	0
450	+14	0	+21	0	+11	0	+19	0	+29	0
500	+14	0	+21	0	+11	0	+19	0	+29	0
600	+15	0	+23	0	+13	0	+19	0	+29	0
700	+14	0	+21	0	+12	0	+19	0	+29	0
800	+15	0	+24	0	+13	0	+19	0	+29	0
900	+17	0	+26	0	+15	0	+19	0	+29	0
1,000	+21	0	+32	0	+18	0				
1,100	+22	0	+33	0	+19	0				
1,200	+23	0	+35	0	+21	0				
1,350	+24	0	+37	0	+22	0				

注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所 の平均値とする。

2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。

3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合は、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。

なお、「埋戻後」とは、特に指示のない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。

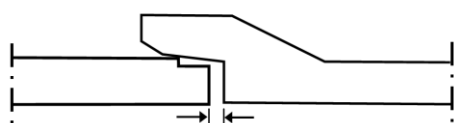
4. 標準値は目地処理のため施工上必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。規格値及び管理基準値は下図に示す位置を測定するものとする。

5. 管の外面から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示すa' b' c' d'とする。

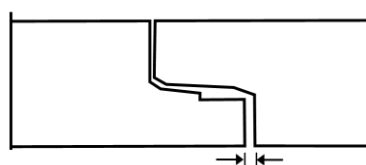
(参考) ジョイント間隔測定位置を以下に示す。

(1)内面から計測する場合

B形及びNB形



NC形

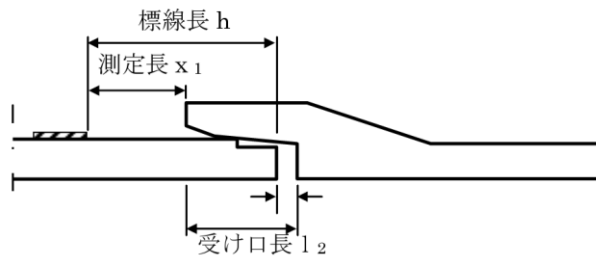


J I S A 5372 R C管(NC形管)					
呼 び 径 (mm)	標準値	管 理 基 準 値		(参考) 規格値	
1,500	5	+24	+5	+33	+5
1,650	5	+24	+5	+33	+5
1,800	5	+24	+5	+33	+5
2,000	5	+24	+5	+33	+5
2,200	5	+24	+5	+33	+5
2,400	5	+27	+5	+38	+5
2,600	5	+27	+5	+38	+5
2,800	5	+27	+5	+38	+5
3,000	5	+27	+5	+38	+5

(2)外面から計測する場合

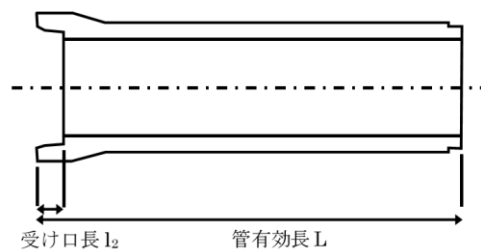
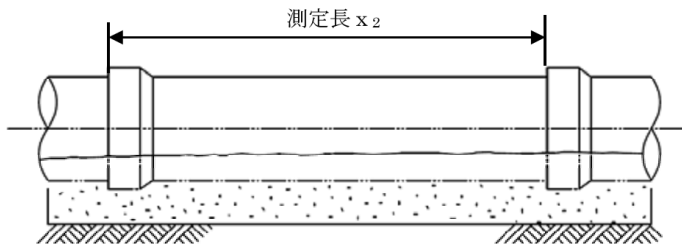
1)標線による計測

ジョイント間隔=受け口長 l_2 - (標線長 h - 側線長 X_1)



2)標線によらない計測 (参考)

ジョイント間隔=受け口長 l_2 - (管有効長 L - 測定長 X_2)

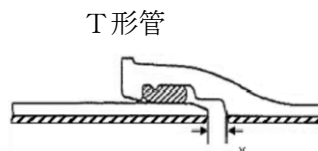
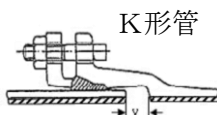


別表ウ 管水路（ダクトイル鋳鉄管）ジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

規格	J I S G5526・5527 及び J D P A G 1027				J I S G5526・5527 及び J D P A G1027・1029			
	8 管水路工事 K 形				8 管水路工事 T 形 (直管)			
呼び径 (mm)	管理基準値		(参考) 規格値		管理基準値		(参考) 規格値	
75	+14	0	+19	0	+11	0	+16	0
100	+14	0	+19	0	+11	0	+16	0
150	+14	0	+19	0	+11	0	+16	0
200	+14	0	+19	0	+10	0	+14	0
250	+14	0	+19	0	+10	0	+14	0
300	+14	0	+19	0	+16	0	+24	0
350	+22	0	+31	0	+16	0	+24	0
400	+22	0	+31	0	+16	0	+24	0
450	+22	0	+31	0	+16	0	+24	0
500	+22	0	+31	0	+20	0	+30	0
600	+22	0	+31	0	+20	0	+30	0
700	+22	0	+31	0	+20	0	+30	0
800	+22	0	+31	0	+20	0	+30	0
900	+22	0	+31	0	+25	0	+40	0
1,000	+25	0	+36	0	+25	0	+40	0
1,100	+25	0	+36	0	+25	0	+40	0
1,200	+25	0	+36	0	+25	0	+50	0
1,350	+25	0	+36	0	+25	0	+50	0
1,500	+25	0	+36	0	+25	0	+60	0
1,600	+25	0	+40	0	+25	0	+70	0
1,650	+25	0	+45	0	+25	0	+70	0
1,800	+25	0	+45	0	+25	0	+80	0
2,000	+25	0	+50	0	+25	0	+90	0
2,100	+25	0	+55	0	—	—	—	—
2,200	+25	0	+55	0	—	—	—	—
2,400	+25	0	+60	0	—	—	—	—
2,600	+25	0	+70	0	—	—	—	—

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4 箇所 の 平均値とする。
2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4 箇所のうち1 箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 700 mm 以下の測定は必要ない。
- なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
4. 管の外から測定する場合の測定位置は施工管理記録様式に示す a' b' c' d' とする。
5. ダクトイル鋳鉄管のうち、K 形管・T 形管のジョイント間隔測定位置及びU 形管の標準値は下図の y 寸法である。y の測定位置は、鋳鉄層とモルタルライニング層の境界部を目安とする。



規格	J I S G5526・5527 及び J D P A G1027・1029				J I S G5526・5527 及び J D P A G1029				
	8 管水路工事 T形 (異形管)				8 管水路工事 U形				
呼び径 (mm)	管理基準値		(参考) 規格値		標準値	管理基準値		(参考) 規格値	
75	+11	0	+16	0	—	—	—	—	—
100	+11	0	+17	0	—	—	—	—	—
150	+11	0	+18	0	—	—	—	—	—
200	+10	0	+16	0	—	—	—	—	—
250	+10	0	+14	0	—	—	—	—	—
300	—	—	—	—	—	—	—	—	—
350	—	—	—	—	—	—	—	—	—
400	—	—	—	—	—	—	—	—	—
450	—	—	—	—	—	—	—	—	—
500	—	—	—	—	—	—	—	—	—
600	—	—	—	—	—	—	—	—	—
700	—	—	—	—	105	+23	-5	+32	-5
800	—	—	—	—	105	+23	-5	+32	-5
900	—	—	—	—	105	+23	-5	+32	-5
1,000	—	—	—	—	105	+23	-5	+33	-5
1,100	—	—	—	—	105	+23	-5	+33	-5
1,200	—	—	—	—	105	+23	-5	+33	-5
1,350	—	—	—	—	105	+23	-5	+35	-5
1,500	—	—	—	—	105	+23	-5	+35	-5
1,600	—	—	—	—	115	+24	-5	+33	-5
1,650	—	—	—	—	115	+24	-5	+33	-5
1,800	—	—	—	—	115	+24	-5	+33	-5
2,000	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,100	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,200	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,400	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,600	—	—	—	—	130	+24	-5	+36	-5

注) 6. J D P A G1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

- ・ T形及びT形用継ぎ輪 : 300~2,000、K形 300~2,600

J D P A G1029 (推進工法用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

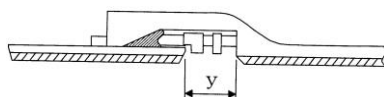
- ・ T形 : 250~700、U形 : 800~2,600

J D P A G1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) のT形用継ぎ輪のジョイント間隔は、
J I S G5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形に準じる。

7. J I S G5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形、U形のジョイント間隔は、J I S G5526
(ダクタイル鋳鉄管) のK形、U形に準じる。

8. 標準値は継手構造上、本来開くべきジョイント間隔値を示しており、規格値及び管理基準値は標準値に対する値を示している。

U形管



別表エ 管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

規格	J I S A 5350				
	B 形 及 び T 形				
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値	(参 考) 規 格 値	
良 質 地 盤				軟 弱 地 盤	
200	0	+10 -5(0)	+ 33 -33(0)	+22 -22(0)	
250	0	+10 -5(0)	+ 33 -33(0)	+22 -22(0)	
300	0	+10 -5(0)	+ 38 -38(0)	+25 -25(0)	
350	0	+10 -5(0)	+ 38 -38(0)	+25 -25(0)	
400	0	+10 -5(0)	+ 43 -43(0)	+28 -28(0)	
450	0	+10 -5(0)	+ 43 -43(0)	+28 -28(0)	
500	0	+15 -10(0)	+ 53 -52(0)	+35 -34(0)	
600	0	+15 -10(0)	+ 53 -52(0)	+35 -34(0)	
700	0	+15 -10(0)	+ 53 -52(0)	+35 -34(0)	
800	0	+15 -10(0)	+ 53 -52(0)	+35 -34(0)	
900	0	+15 -10(0)	+ 53 -52(0)	+35 -34(0)	
1,000	0	+20 -15(0)	+ 53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,100	0	+20 -15(0)	+ 53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,200	0	+20 -15(0)	+ 53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,350	0	+20 -15(0)	+ 53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,500	0	+20 -15(0)	+ 53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,650	0	+25 -20(0)	+ 80 -77(0)	+53 -50(0)	
1,800	0	+25 -20(0)	+ 80 -77(0)	+53 -50(0)	
2,000	0	+25 -20(0)	+ 95 -92(0)	+63 -60(0)	
2,200	0	+25 -20(0)	+ 95 -92(0)	+63 -60(0)	
2,400	0	+25 -20(0)	+113 -110(0)	+75 -72(0)	
2,600	0	+25 -20(0)	+113 -110(0)	+75 -72(0)	
2,800	0	+25 -20(0)	+128 -125(0)	+85 -82(0)	
3,000	0	+25 -20(0)	+128 -125(0)	+85 -82(0)	

注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均値とする。

2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。

3. 測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm以下の場合、管の外から測定してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 700 mm以下の測定は必要ない。

なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。

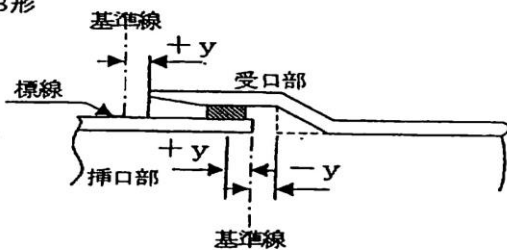
4. 管の外側から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示す a' b' c' d' とする。

5. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法 y である。なお、基準線に対し抜け出し側を (+)、入り込み側を (-) とする。また、管理基準値等のうち () 内数値は、点線で示した形状の管に適用する。

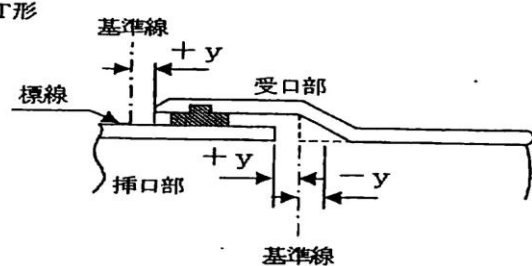
6. D形の場合は、受口側と挿口側を各々測定する。

規格	J I S A 5350						
	C 形						
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値		(参 考) 規 格 値		
良 質 地 盤					軟 弱 地 盤		
200	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
250	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
300	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
350	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
400	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
450	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
500	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
600	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
700	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
800	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
900	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
1,000	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,100	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,200	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,350	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,500	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,650	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
1,800	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
2,000	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,200	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,600	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,800	—	—	—	—	—	—	—
3,000	—	—	—	—	—	—	—

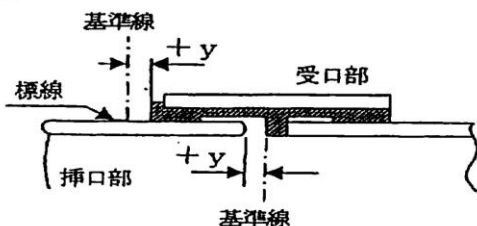
B形



T形

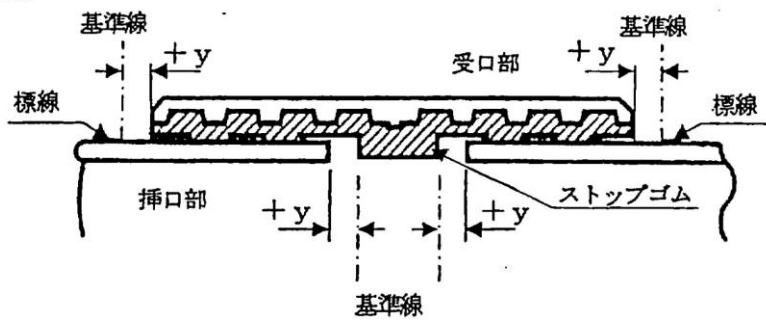


C形



規格	J I S A 5350						
	D 形						
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値		(参 考) 規 格 値		
良 質 地 盤					軟 弱 地 盤		
200	0	+5	0	+25	- 3	+15	- 3
250	0	+5	0	+25	- 3	+15	- 3
300	0	+5	0	+25	- 3	+15	- 3
350	0	+5	0	+25	- 3	+15	- 3
400	0	+5	0	+35	- 3	+25	- 3
450	0	+5	0	+35	- 3	+25	- 3
500	0	+15	0	+35	- 3	+25	- 3
600	0	+15	0	+35	- 3	+25	- 3
700	0	+15	0	+35	- 3	+25	- 3
800	0	+20	0	+40	- 5	+30	- 5
900	0	+20	0	+40	- 5	+30	- 5
1,000	0	+20	0	+40	- 5	+30	- 5
1,100	0	+20	0	+40	- 5	+30	- 5
1,200	0	+20	0	+40	- 5	+30	- 5
1,350	0	+20	0	+40	- 5	+30	- 5
1,500	0	+25	0	+45	- 5	+35	- 5
1,650	0	+25	0	+45	- 5	+35	- 5
1,800	0	+25	0	+45	- 5	+35	- 5
2,000	0	+25	0	+45	- 5	+35	- 5
2,200	0	+30	0	+50	- 5	+40	- 5
2,400	0	+30	0	+50	- 5	+40	- 5

D形



※ 管がストップゴムをつぶしている場合は (-) とする。なお、その場合受口側の値を0とする。

項 目	判 定 基 準
1. ルートの溶込み不良	目違いのない部分の溶込み不良は、1個の長さ 20 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 25 mm以下を合格とする。
2. 目違いによる溶込み不良	ルートの片側の角が露出している（又は溶融されていない）とき、1個の長さ 40 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長 70 mm以下を合格とする。
3. 内面へこみ	内面へこみは、その部分の写真濃度がこれに接する母材部分の写真濃度を超えない場合は長さに関係なく合格とするが、超える場合には 14 の溶落ちと同様に取り扱う。
4. 融合不良	母材と溶接金属との間の融合不良は、1個の長さ 20 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 25 mm以下を合格とする。溶接パス間の融合不良は、1個の長さ 20 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 30 mm以下を合格とする。
5. 溶落ち	溶落ちは、いかなる方向に測った寸法も1個につき 6 mm又は管の肉厚のいずれか小さい方を超えることなく、連続した溶接長 300 mm当たり最大寸法の合計長さ 12 mm以下を合格とする。
6. 細長いスラグ巻込み	細長いスラグ巻込みは、1個の長さ 20 mm以下、幅 1.5 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 30 mm以下を合格とする。平行に並んだスラグ巻込みは、その間隔が 1 mmを超えていればそれぞれ独立したきずとみなす。
7. 孤立したスラグ巻込み	孤立したスラグ巻込みは、1個の長さ 6 mm以下、幅 3 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 12 mm以下を合格とする。
8. タングステン巻込み	タングステン巻込みは、J I S Z 3104 付属書 4 の第 4 種のきずの像の分類の 4 類以外を合格とする。
9. ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきず	ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきずは、J I S Z 3104 付属書 4 の第 1 種のきずの像の分類の 4 類以外を合格とする。
10. 虫状気孔	虫状気孔（パイプ）は、J I S Z 3104 付属書 4 の第 2 種のきずの像の分類の 4 類以外を合格とする。
11. 中空ビード	中空ビードは、1個の長さ 10 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 50 mm以下で、長さ 6 mmを超えるものは、50 mm以上離れていなければならない。
12. 割れ	割れは、すべて不合格とする。
13. きずの集積	10 から 19 までに掲げるきずの長さの和が管の円周長さの 8 %以下で、かつ、連続した溶接長 300 mm当たり 50 mm以下を合格とする。ただし 11 に掲げるきずを除く。
14. アンダカット	内面のアンダカットは、1個の長さは 50 mm、合計長さは管の円周長さの 15% を超えてはならない。
15. きずの写真濃度	(a) 透過写真上の大きさと合格するきずでも、写真濃度が母材部の写真濃度より著しく高い場合には、不合格とする。 (b) 内面のビードの写真濃度が著しく低い場合には、不合格とする。

別表カ 塗覆装の方式及びその厚さ

種別	塗覆装方式	最小厚さ (mm)
直管 テーパ付き 直管異形管	【内面塗装】 「水輸送用塗膜層鋼管－第4部：内面エポキシ樹脂 塗装（JISG3443-4）」 溶剤系エポキシ樹脂塗装	0.5 mm以上 （「農業用プラスチック被覆鋼管 （WSPA-101-2009）」によ る）
	【外面塗装】 「水輸送用塗膜装鋼管－第3部：外面プラスチック 被覆（JISG3443-3）」	2.0 mm以上
現場溶接部	【内面塗装】 「水輸送用塗膜装鋼管－第4部：内面エポキシ樹脂 塗装（JISG3443-4）」	0.5 mm以上 （「農業用プラスチック被覆鋼管 （WSPA-101-2009）」によ る）
	【外面塗装】 「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート（WSP 012 -2010）」	プラスチック系の場合 基 材：1.5 mm以上 粘着剤：1.0 mm以上
<p>備考1. 制水弁室、スラストブロック等貫通部の外面塗覆装は、原則としてプラスチック被覆とする。 なお、スチフナーについても同様とするが、同部の被覆厚さについては規定しない。 ただし、フランジ等外面部でプラスチック被覆の施工ができない場合は水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装とし、塗膜厚0.5mm以上とする。</p> <p>2. 継手部の外面塗覆装は、「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート(WSP012)」プラスチック系を基本とする。なお、施工条件等やむを得ない理由により、プラスチック系が使用できない場合は、ゴム系を使用する。ただし、ゴム系の最小厚さは、1.5mmとする。</p>		